

定期報告書の添付書類一覧

【その1】

- 1 農場の平面図（次のものを明示したもの）
 - ① 衛生管理区域及びその出入口
 - ② 消毒設備の設置個所
 - ③ 衛生管理区域の境界方法

【その2】

- 2 必要のない者を衛生管理区域に立ち入らせないようにするとともに、衛生管理区域に立ち入った者が飼養する家畜に接触する機会を最小限とするために講じた措置の内容を記載した書面
- 3 衛生管理区域・畜舎等の出入口付近に設置した消毒設備の種類を記載した書面
- 4 畜舎ごとの家畜の飼養密度を記載した書面（家畜を収容している最小単位の区画の「床面積÷収容頭羽数」により算出。但し、床面積や収容頭羽数が同一でない場合には「農場内の平均床面積÷平均収容頭羽数」により算出する、などとする）

【その3】

- 5 家畜伝染病発生時に焼却又は埋却が必要となる場合に備えた土地の確保等の準備措置
- 6 埋却用地・焼却施設・化製場を確保していない場合は、これらを確保するための取組の状況を記載した書面
- 7 埋却用地の確保の状況として次に掲げる事項を記載した書類
 - ① 埋却用地の所在地
 - ② 埋却用地が自己の所有する土地でない場合は、
イその所有者の氏名又は名称
ロ当該土地の利用に関する契約の内容
 - ③ 埋却用地の面積・利用状況
 - ④ 農場から埋却用地までの距離
- 8 焼却・化製処理のための準備措置の状況
 - ① 焼却施設・化製処理場の名称 埋却用地の近隣住民その他の関係者への埋却の実施に関する説明の有無
 - ② 焼却施設・化製処理場の所在地 ⑤の説明に対する当該関係者の承諾の有無
 - ③ 農場から焼却施設・化製処理場までの距離

【その4】

- 9 事前説明
 - ① 埋却用地・焼却施設・化製処理場の近隣住民その他の関係者への埋却・焼却・化製の実施に関する説明の有無
- 10 大規模所有者の追加報告項目
 - ①農場を担当する獣医師（診療施設）の名称・連絡先
 - ②従業員が農林水産大臣の定める一定の症状を確認した場合に、直ちに家畜保健衛生所へ通報することを規定したものの写し

注意：馬牧場の所有者にあっては、5から9の書面添付は必要ありません

定期報告書の添付書類【その2】

農場名		農場管理者	
-----	--	-------	--

2 衛生管理区域に入った者が家畜に接触する機会を最小限とするための措置

立入制限の看板を設置している	はい・いいえ	「はい」の場合は 設置場所をチェック
<input type="checkbox"/> 農場敷地の入口 <input type="checkbox"/> 衛生管理区域の入口 <input type="checkbox"/> 畜舎ごとの入口 <input type="checkbox"/> その他 ()		

看板の設置が「いいえ」の場合、具体的な措置を以下に記入。

--

3 衛生管理区域・畜舎等の出入口付近に設置した消毒設備の種類

設置場所	消毒設備の種類
衛生管理区域入口	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 動噴 <input type="checkbox"/> 消毒槽 <input type="checkbox"/> 石灰帯 <input type="checkbox"/> その他 ()
畜舎入口	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 踏込み消毒槽 <input type="checkbox"/> 手指消毒 <input type="checkbox"/> その他 ()
それぞれ「なし」の場合、消毒に代わる措置を記入	

4 畜舎毎の家畜の飼育密度

番号	畜舎名	床面積 (㎡)	頭羽数	占有面積(㎡/頭)	種類	飼養形態
1						
2						
3						

- 注意 1.畜舎名は農場の平面図(添付書類【その1】)に記された畜舎の名称を記入する。
 2.専有面積は、牛床、畜房、ケージの面積を頭羽数で除して、1頭あたりの面積を記入する。
 3.種類は家畜の発育時期による区分等を記入する。
 記入例 牛：子牛、育成牛、成牛、豚：子豚、肥育豚、母豚、鶏：育成鶏、採卵鶏、等
 4.飼養形態には畜舎構造の特徴を記入する。
 記入例 繋ぎ牛舎、フリーストール(単飼・群飼育の別)、〇〇階建平飼い、直立〇〇段ゲージ 等
 5.記入欄が不足する場合は、裏面に記入するかまたは用紙を複写して用いる。

定期報告書の添付書類【その3】 (馬牧場については添付の必要はありません)

農場名		農場管理者	
-----	--	-------	--

5 家畜伝染病発生時に焼却又は埋却が必要となる場合に備えた土地の確保等の準備

① 埋却用地を確保している	はい・いいえ	「はい」の場合は7と【その4】9を記入
② 焼却・化製処理のための準備措置を講じている	はい・いいえ	「はい」の場合は8と【その4】9を記入

6 5の①、②とも「いいえ」とした場合は、これらを確保するための取組状況を下欄に記入。

7 埋却用地の確保の状況 (5の①が「はい」のとき)

① 埋却用地の所在地

②埋却用地が自己の所有する土地でない場合は以下に記入

ア その所有者の氏名又は名称

イ 当該土地の利用に関する契約の内容

注意 契約書等書面により確認できるものがあれば写しを添付すること

③埋却用地の面積・利用状況

④ 農場から埋却用地までの距離

面積		m ²	距離		km
利用状況					

【参考】飼養衛生管理基準に定められた埋却用地の標準面積。					
・ 成牛（月齢が満24月以上の牛をいう）	1頭あたり	5	平方メートル		
・ 肥育豚（月齢が満3月以上のものに限る。）	1頭あたり	0.9	平方メートル		
・ 成鶏（日齢が満150日以上鶏をいう。）	100羽あたり	0.7	平方メートル		

8 焼却・化製処理のための準備措置の状況 (5の②が「はい」のとき)

① 焼却施設・化製処理場の名称

② 焼却施設・化製処理場の所在地

③ 農場から焼却施設・化製処理場までの距離

距離		km
----	--	----

定期報告書の添付書類【その4】

農場名		農場管理者	
-----	--	-------	--

9 埋却用地、焼却・化製施設周辺への事前説明 (馬牧場については記入の必要はありません)

①埋却・焼却・化製処理の実施に関する説明の有無及び承諾の有無

説明の有無	有・無
-------	-----

→「有」の場合は、下欄に記入

説明の対象者	承諾の有無
	有・無

注意 7から9については、埋却用地（焼却・化製施設）が複数ある場合は用地（施設）ごとに作成する。

10 大規模所有者の追加報告項目

所有者は「大規模所有者」に該当する	はい・いいえ
-------------------	--------

大規模所有者とは、次の頭羽数以上の家畜の所有者をいう。

- ① 成牛の場合 200頭以上
(成牛とは、満24月以上の牛、ただし、乳用雄および交雑種では満17月以上)
- ② 育成牛の場合 3,000頭以上 (育成牛とは、成牛を除く満4月以上の牛)
- ③ 水牛・馬の場合 200頭以上
- ④ 鹿・めん羊・山羊・豚・いのししの場合 3,000頭以上
- ⑤ 鶏・うずらの場合 10万羽以上
- ⑥ あひる・きじ・だちょう・ほろほうろ鳥・七面鳥の場合 1万羽以上

① 「はい」の場合は、以下に、農場を担当する獣医師（または診療施設名）、連絡先を記入

担当の獣医師の氏名・所属又は診療施設	電話番号

② 加えて、従業員が農林水産大臣が定める一定の症状を確認した場合に、家畜保健衛生所へ直ちに通報することを規定したものの写しを添付する。